

2026 年 4 月作成

貯法 室温保存



クレデリオ
クワトロ[®]錠

(ロチラネル、モキシデクチン、
プラジクアンテル、ピランテル)

クレデリオ クワトロ錠 S

クレデリオ クワトロ錠 M

クレデリオ クワトロ錠 L

クレデリオ クワトロ錠 LL

クレデリオ クワトロ錠 XL

クレデリオクワトロ[®]錠は、ロチラネル、モキシデクチン、プラジクアンテル及びピランテルパモ酸塩を有効成分とするビーフフレーバー錠で、特殊製法によりプラジクアンテルの苦みを抑えた、小さくて飲ませやすい錠剤です。月 1 回の投与で、犬糸状虫の寄生予防、ノミ及びマダニの駆除、イヌニキビダニの駆除による全身性毛包虫症の改善並びに犬回虫（未成熟虫及び成虫）、犬小回虫、犬鉤虫（未成熟虫及び成虫）、瓜実条虫及び単包条虫・多包条虫の駆除が可能です。

【成分及び分量】

本品 1 錠中、以下の成分及び分量を含む。

製品名	有効成分含量(mg)			
	ロチラネル	モキシデクチン	プラジクアンテル	ピランテルパモ酸塩*
クレデリオクワトロ錠 S	56.25	0.05625	14.25	41.07 (14.25)
クレデリオクワトロ錠 M	112.5	0.1125	28.5	82.14 (28.5)
クレデリオクワトロ錠 L	225	0.225	57	164.28 (57)
クレデリオクワトロ錠 LL	450	0.45	114	328.56 (114)
クレデリオクワトロ錠 XL	900	0.9	228	657.12 (228)

*：カッコ内はピランテルとしての含量(mg)

【効能又は効果】

- 犬：犬糸状虫の寄生予防
- ノミ及びマダニの駆除
- イヌニキビダニの駆除による全身性毛包虫症の改善
- 犬回虫（未成熟虫及び成虫）、犬小回虫、犬鉤虫（未成熟虫及び成虫）、瓜実条虫及び単包条虫・多包条虫の駆除

【用法及び用量】

体重 1kg 当たりロチラネル 20mg、モキシデクチン 0.02mg、プラジクアンテル 5mg 及びピランテルパモ酸塩 14.4mg（ピランテルとして 5mg）を基準量として、食餌と同時に又は食後に経口投与する。犬糸状虫の寄生予防を目的とする場合は、蚊の発生から蚊の発生終息 1 ヶ月後までの期間、毎月 1 回、1 ヶ月間隔で投与する。体重別には、次の投与量による。

	体重	投与量(個)
S	1.5kg 以上 2.8kg 以下	1
M	2.8kg を超え 5.5kg 以下	1
L	5.5kg を超え 11.0kg 以下	1
LL	11.0kg を超え 22.0kg 以下	1
XL	22.0kg を超え 45.0kg 以下	1

45kg を超える犬：上記の錠剤を適切に組み合わせる

【使用上の注意】

（基本的事項）

1. 守らなければならないこと

（一般的注意）

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は以下の①～④の全てに該当する犬への使用が推奨される。
 - ① ノミ又はマダニの寄生若しくは寄生リスクがある場合又はイヌニキビダニの駆除による全身性毛包虫症の改善を要する場合（ロチラネル）
 - ② 犬糸状虫の寄生予防を要する場合又は犬鉤虫の駆除を要する場合（モキシデクチン）
 - ③ 犬回虫又は犬小回虫の駆除を要する場合（モキシデクチン及び/又はピランテルパモ酸塩）
 - ④ 瓜実条虫の寄生若しくは寄生リスクがある場合、単包条虫又は多包条虫の駆除を要する場合（プラジクアンテル）

（取扱い及び廃棄のための注意）

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

- 誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- 投与後に手を洗うこと
- 単包条虫・多包条虫は人獣共通感染症であるので、犬で単包条虫又は多包条虫感染が確認された場合は、直ちに医師の診察を受けること。

（犬に関する注意）

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- 複数飼育の場合は、再感染を最小限にするため、全頭に投与することが望ましい。

（専門的事項）

① 警告

- エキノコックス症については、飼い主の安全の確保及び感染拡大防止のための対応を飼い主に指導するべきである。詳しくは厚生労働省ウェブサイト（犬のエキノコックス症対策ガイドライン 2004－一人のエキノコックス症予防のために－）を参照のこと。

② 対象動物の使用制限

- 本剤は8週齢未満の子犬又は1.5kg未満の犬には投与しないこと。
- 妊娠中又は授乳中の犬に対する本剤の安全性は確認されていないため、使用を避けること。
- 本剤の有効成分又は添加剤に過敏症の犬には使用しないこと。本剤には添加物としてフレバー（野菜）などを含む。

③ 重要な基本的注意

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。

- 本剤投与前に必ず血液検査を行い、ミクロフィラリアがないことを確認した後、投薬を行うこと。
- 犬糸状虫感染犬に本剤を投与する場合は、成虫及びミクロフィラリアを駆除するなど適切な処置を行い、投薬を行うこと。
- 本剤はMDR1遺伝子変異のある犬を用いた試験において忍容性が示されているが、コリー犬及びその系統の犬種は他の犬種に比べて安全域が狭いことが示されていることから、これらの犬種に対しては、用法・用量を厳密に守ること。
- 本剤投与の1時間以内に嘔吐するか、それ以降であっても本剤の排出を認めた場合は、犬の健康状態に留意して本剤を再投与すること。また、この場合も食餌と同時又は食後に経口投与すること。
- イソオキサゾリン系薬剤の投与後、けいれん、運動失調及び振戦を含む神経症状が認められることがある。
- イソオキサゾリン系薬剤投与時の注意として、てんかん発作の病歴のある犬に投与する場合は、投与の是非を慎重に判断すること。
- イヌニキビダニについては、月1回の投与を、生存ダニが検出されなくなるまで継続すること。この場合、投与1ヵ月後から1ヵ月間隔で皮膚搔爬検査を行い、2ヵ月連続で生存ダニが検出されなくなるまで投与することが望ましい。
- 毛包虫症はイヌニキビダニによる皮膚疾患であるが、他にも複数の要因が関係する疾病のため、可能であれば、いかなる基礎疾患も適切に治療することが望ましい。
- 本剤による条虫類駆除の確認の際、体節がバラバラになり半透明の状態で排出されるので注意深く観察するよう飼い主に指導すること。

④ 副作用

- 本剤の投与により、嘔吐、下痢、元気消失、食欲不振、体重減少等が認められることがある。

⑤ その他の注意

- エキノコックス症は人獣共通感染症であり、ヒトにおいては感染症法第4類感染症に指定されている。獣医師は発見後、直ちに保健所へ届け出ること。
- 本剤は、ノミ及びマダニに対し1ヵ月間駆除効果が持続することが確認されているので、継続投与が必要な場合は、これらの寄生虫の駆除効果が持続する期間を考慮して行うこと。
- 本剤の有効成分ロチラネルは既に寄生しているノミを6時間以内に駆除し、投与後1ヵ月間、新たに犬に寄生したノミに対して4時間以内に駆除効果を発現する。
- 本剤の有効成分ロチラネルは既に寄生しているマダニに対して8時間以内に駆除効果を発現し、投与後1ヵ月間、新たに犬に寄生したマダニを48時間以内に駆除する。
- 本剤は、犬に寄生したノミ及びマダニを駆除する動物用医薬品であり、これらの寄生虫が媒介する疾病の伝播を阻止できるかについての検討は行っていない。
- いかなる種類の駆虫薬においても、それらを頻繁に反復使用することによる耐性獲得の恐れがある。したがって、耐性が獲得されることを制限するため、対象寄生虫の現在の感受性についての個々のケースの判断及び各地域の疫学的情報に基づいて本剤を使用すること。

【薬力学的情報等】

(薬効薬理)

ロチラネルは、エランコ社が犬用の外部寄生虫駆除剤として開発したクレデリオ錠の有効成分であり、動物用医薬品においてノミ及びマダニの駆除剤として使用されているイソオキサゾリン系に分類される。作用機序はフェニルピラゾール系殺虫剤などと同様に、神経伝達物質であるγ-アミノ酪酸（GABA）受容体の塩素チャネルに特異的に作用し、塩素イオンの流入を阻止して神経細胞の過興奮を引き起こす。これにより、昆虫は中枢神経系の制御が不能となり死に至る。また、ロチラネルは昆虫の GABA 受容体に高い選択性をもって作用し、哺乳類の GABA 受容体にはほとんど作用しないことから、哺乳類に対しては高い安全性を示す。

モキシデクチンは、*Streptomyces cyaneogriseus* subsp. *Noncyanogenus* の産生する F-alpha の半合成メトキシム誘導体である。他のマクロサイクリックラクトン系駆虫薬と同様、線虫や節足動物に非痙攣性の麻痺を誘発する。作用機序としては、膜貫通性のグルタミン酸作動性塩素イオンチャネルに作用して塩素イオンの膜透過性を増加させ、神経細胞や筋肉細胞の膜を過分極させることにより寄生虫を死に至らしめると考えられている。

プラジクアンテルは、ピラジノイソキノリン系のラセミ誘導体であり、種々の条虫や吸虫に有効な駆虫薬として使用されている。作用機序は、寄生虫の外皮膜リン脂質との相互作用により膜構造を不安定化させ、カルシウムイオン流入を促進することで筋収縮及び外皮の構造的損傷を引き起こし、致死させると考えられる。

ピランテルパモ酸塩は、テトラヒドロピリミジン系殺線虫剤であり、種々の消化管内線虫の駆除剤として使用されている。作用機序は、線虫体の神経接合部位に作用し、脱分極神経遮断を起こし、痙攣性の麻痺を生じる。また、コリンエステラーゼ抑制作用を有し、アセチルコリンへの感受性が高まり虫体の拘縮が引き起こされる。

(安全性)

1. 対象動物安全性試験

1) イヌにおける安全性試験

臨床予定投与量の 1、3、5 倍量を 8 週齢のビーグル犬（1 群雌雄各 4 頭）に、28 日間隔で 9 回の反復経口投与した結果、3 倍及び 5 倍量投与群において投与直後に嘔吐が認められたが、それ以外の投与に関連した所見は認められなかった。

2) フィラリア感染犬に対する影響

臨床予定投与量の 1、3 倍量をフィラリア成虫に感染させたビーグル犬（1 群雌雄各 4 頭）に、28 日間隔で 3 回の反復経口投与した結果、ミクロフィラリアやフィラリア成虫の死滅と関連する臨床兆候はなく、どの犬にもアベルメクチンの毒性の兆候は観察されなかった。このことから本品は、フィラリア及びミクロフィラリア陽性の犬に最大推奨用量の 3 倍量まで使用しても安全であると考えられた。

3) アベルメクチン感受性コリー犬への影響

臨床予定投与量の 1、2、5 倍量を、アベルメクチン感受性のコリー犬（1 群 8 頭）に、28 日間隔で 3 回の反復経口投与した結果、全ての試験群において、どの投与サイクルにおいても、運動失調、筋肉の震え、散瞳、発作/痙攣は観察されなかった。5 倍量群において最も高い発生頻度と発生頭数で発生した流涎/流涎過多/嘔吐は、健康なビーグル犬を使った試験でも報告されており、これらのアベルメクチン過敏症の兆候は自然回復する一時的なものであった。以上のことから本品は、MDR1 欠損犬に 5 倍量まで使用しても安全であると考えられた。

2. 国内臨床試験

1) マダニに対する国内臨床試験

マダニの自然感染症例に対して本剤を単回経口投与し、28～32 日間観察した。試験観察期間中、本剤投与群 43 例中 1 例で投与 1 日後に軟便を認めたが、無治療で翌日回復したことから、本剤の安全性に問題は無いと考えられた。

2) 瓜実条虫に対する国内臨床試験

瓜実条虫の自然感染症例に対して本剤を単回経口投与し、7～10 日間観察した。試験観察期間中、本剤投与群 51 例中 1 例で投与当日に軟便を認めたが、無治療で翌日回復したことから、本剤の安全性に問題は無いと考えられた。

【製品情報お問い合わせ先】

エランコジャパン株式会社 製品お問い合わせ窓口

〒107-0052 東京都港区赤坂四丁目 15 番 1 号

TEL: 0120-162-419

月～金／9 時～12 時、13 時～17 時（祝祭日及び会社休業日を除く）

製造販売業者（輸入発売元）

エランコジャパン株式会社

東京都港区赤坂四丁目 15 番 1 号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所

（<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。

クレデリオクワトロ、Elanco 及び  : エランコ又はその関連会社の商標です。

© 2026 Elanco or its affiliates

